

# 養老事業の父、岩田民次郎

vol.258

西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲阿保に移った昭和17年の大阪養老院



▲開院式で述べられた  
岩田民次郎の「祝辞」  
(明治36年11月19日)



▲ホームに祀られる四天王  
寺旧秋野坊の聖徳太子像  
(阿保3丁目・大阪老人ホームで撮影。および同ホーム蔵)



▲「侍従御差遣記念」碑  
寺旧秋野坊の聖徳太子像  
(手前左は阿弥陀像と地藏像)



▲岩田民次郎  
(1869 ~ 1953)

▲「岩田民次郎之像」  
(昭和31年建立)

## 大阪で最古の養老院を創設 阿保に受け継ぐ聖徳太子崇敬

大阪府に民生委員(発足時は方面委員)制度ができて、平成三十年で一〇〇年になることから、今秋、大阪歴史博物館(大阪市中央区)で特別展が開かれました。大正七年(一九一八)に起こった米騒動を契機に、大阪府では住民の生活状況を把握し、困窮者に助言する方面委員が十月に創設されたのです。翌大正八年一月、天王寺村(現大阪市天王寺区)地区の方面委員常務委員となったのが岩田民次郎でした。特別展では、民次郎の方面委員手帳や活動報告書なども多数展示されました。

実は、この民次郎こそ戦前以降、松原の養老事業、のちの社会福祉事業の先駆けとなった人物なのです。民次郎は、現在、阿保三丁目にある社会福祉法人聖徳会大阪老人ホームの創立者として知られています。

民次郎は、今の愛知県一宮市の武家の出で、明治二年(一八六九)、母の実家の現在の岐阜市に生まれました。一七歳で独立し、明治三十五年(一九〇二)、三十四歳の時、四天王寺東門前の東立寺(浄土宗・天王寺区勝山、現茶臼山に移転)内に大阪養老院を創設しました。大阪府内で一番、全国でも四番目の古さです。当初は三名の孤老を収容してのスタートでし

た。翌明治三十六年九月、大阪府の許可を受け、十一月の開院式での民次郎の「祝辞」が大阪老人ホームに残っています。収容者が増えるにつれ、明治三十七年に天王寺の一心寺北側の逢坂に移り、明治四十一年には、今の阿倍野斎場北側の金塚(阿倍野区)に院舎を建設したのです。

その間、明治三十九年、東北地方の大飢饉により、飢えに苦しんだ老人や少年一七名を大阪へ移し、救済にあたっています。明治三十六、四十一年には、「養老新報」も発行し、養老事業の意義を広く訴えました。

民次郎は、飛鳥時代に貧しい上、病いに倒れた多くの民衆を助けたという聖徳太子を非常に敬いました。このため、四天王寺旧支院の秋野坊を借りて少年部をつくったり、坊内の太子殿の礼拝を欠かしませんでした。

また、聖徳太子が自ら彫刻したと伝える坊蔵の聖徳太子像を明治四十四年、阿倍野の院舎に迎えています。翌明治四十五年には、太子像が祀られていた太子殿も秋野坊から移し、一般の人々にも開放され、名称も聖徳殿と改めました。この太子像も、大阪老人ホームに祀られています。聖徳会の名の由来です。

大正十四年(一九二五)、民次郎は方面委員として活躍すると共に、大阪養老院で第一回全国養老事業大会を開き、同院は全国の養老事業を

リードする立場となったのです。

昭和四年(一九二九)六月四日、大阪に行幸中の昭和天皇は牧野伸顕を同院に派遣し、励ましの言葉を伝えられました。民次郎にはこの上ない名誉なことでした。これを記念して建てられた「昭和四年六月四日侍従 御差遣記念 院長岩田民次郎謹書」がホーム入口北側に移建されています。石碑の前には、昭和二年四月と彫られた花立てと阿弥陀如来像や地藏像も祀られています。

民次郎は昭和十六年(一九四一)、戦時体制に伴い阿倍野本院とは別に、阿保の現在地に防空避難所として、松原分院を建てることにしました。翌昭和十七年に完成し、長寿園と名づけられ、本院から疎開が行われました。松原時代の始まりです。

戦後まもなくの昭和二十一年、七十八歳の民次郎は引退することになりました。二代目院長には孫婿の岩田克夫が就任することとなり、阿倍野院舎を廃し、松原を本院として再出発したのです。民次郎は引退後も毎日のように、松原本院を訪れ、老院長とよばれ親しまれました。

民次郎は昭和二十九年五月十二日、八十六歳で亡くなりました。昭和三十一年十一月三日、民次郎の胸像「大阪養老院創立者 岩田民次郎之像」が克夫の撰文と共に建てられ、ホーム玄関前で人々を迎えています。